あれこれ情報版

コロナ感染症がまた流行しています。第何波になるでしょうか。テレビで「今日の感染者数」として発表されることがなくなったので、流行っていないように思われがちです。家族間で罹患することが多く、比較的軽症という印象を受けます。

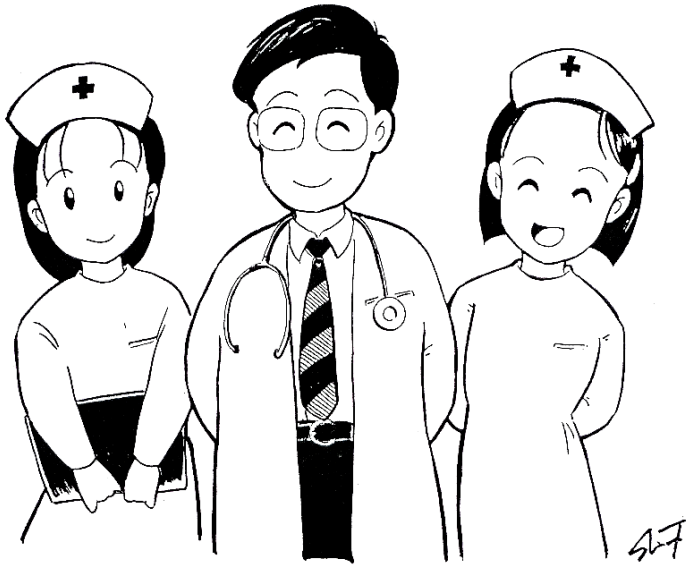
当院の夏季休暇は 8 月 11 日(金・祝）から 16 日(水)です。17 日（木）から平常通り診察いたします。変更があれば院内に掲示し、ホームページにも掲載します。

この春、ヒメダカを 10 匹購入し、自宅で飼育しています。6 月に入って、次々に卵を産み、赤ちゃんメダカがどんどん増えています。もし「飼ってみようかな・・」と思われる方がおられたら少しずつ引き取っていただけると助かります。お気軽にお声がけください。よろしくお願いいたします。

認知症検診は月、火、金曜の午前 10 時から 11 時までに来院してください。問診票を事前に取りに来ていただき、お家でゆっくり記入して受診時にご持参ください。

すこやか通信

‘23　7-8 号　Vol.155



児島医院

内科・循環器内科・小児科・皮膚科・泌尿器科

神戸市東灘区深江北町 2-8-26

☎078-431-0696

診察室こぼれ話

粉瘤（ふんりゅう）とは、何らかの理由により皮膚に袋状の構造物ができてしまい、袋の中に剥がれ落ちた角質や皮脂がたまって徐々に大きくなってしまったものです。良性の皮膚腫瘍の一種で、アテローム、表皮嚢腫（のうしゅ）とも呼ばれます。さらに細菌が侵入して化膿してしまうと患部が腫れて赤くなり、痛みを引き起こすこともあります（炎症性粉瘤）。

治療は主に、手術による腫瘍の切除です。良性腫瘍なので治療を受けなくてもあまり問題はありませんが、化膿して膿が流れ出ることもあるので早い段階で治療をした方が負担の少ない治療法を選択できます。

ほとんどの粉瘤が発生する原因は分かっていないのが現状です。手のひら、足の裏にできる粉瘤の場合、けがやいぼができるウイルスへの感染をきっかけに発生することもあると考えられています。しかし、これらも原因の一部で決定的なものが分かっているわけではありません。

粉瘤は、全身のどこの皮膚にも発症します。多くの場合、皮膚が盛り上がったやわらかいしこりとして現れます。自然となくなっていくこともありますが、基本的には自然治癒はあまりありません。ふくらんだしこりの中央の開口部が黒い点としてみえることがあり、強く圧迫されて開口部が破れた場合、不快な臭いのする角質が排出されることがあります。内部の角質が増えるにつれて少しずつ大きくなり、ときには数 cm 以上になることもあります。

炎症を起こしていない粉瘤の場合、手術で腫瘍を取り除きます。一般的な治療では、局所麻酔の注射をして切開し、内容物と腫瘍の袋を取りだして縫合します。比較的簡易な手術です。

炎症性粉瘤の場合は、軽ければ抗生剤や抗炎症剤を服用して炎症が収まるのを待ってから摘出します。感染度が高いときは切開してたまった膿を出した後、軟膏を塗って開放治療をし、傷が落ち着いてから袋を摘出します。必要に応じて抗菌薬・痛み止めの内服を行います。その後、残った腫瘍の範囲および傷の状況に応じて手術や追加の治療が行われます。

当院では、土曜日の午前中に泌尿器科の医師が粉瘤手術をしています。ご予約をしていただくと診療がスムーズになります。ご不明なことがありましたら受付でお声がけください。

（Medical Note を参照）